

広田小学校 PTA（保護者） 意見交換会

令和 4 年 3 月 30 日（水）17 時 00 分から 18 時 30 分
川里生涯学習センター

① 参加者（5 名）

② 出席者

齊藤教育部長 新井副主査 堀主任

③ 以下、主な意見要旨

（保護者）

3 校が合併するのであれば、良い学校となるように意見を出し合い、全員が納得する学校を作っていきたい。

（保護者）

男子トイレについてだが、今の子どもたちは、ショッピングモールにあるような新しいトイレに慣れてしまっている。

学校のトイレは大きいため、上手く大便をすることができないと聞いている。低学年の子どもたちが使用するトイレは、子ども用トイレに改修してほしい。

（保護者）

本当に心苦しい意見であり、言いにくいことは重々承知ではあるが、今後、教室数が不足してしまった際に、ひまわり学級の子たちは余裕教室の多い共和小学校に通学してもらうということも考えて良いのではないか。

（保護者）

便座を使用するための補助器具を市の予算で購入することを検討できないか。

（保護者）

教室が足りないときに、プレハブを作るのは避けてほしい。室内環境も校舎に比べると劣る気もするし、プレハブに入っている学級だけ疎外感を感じるのではないか。

（保護者）他の学校の保護者からの意見でもあったかと思うが、1、2、3 年生だけ旧校舎に残り、4 年生以降の児童から新校舎に移るというのは考えられないのか。

（事務局）旧校舎の老朽化という問題が解決できない。

スクールバスの運行においても、各校舎を維持しつつ、運行するというのは現実的には予算の関係

で厳しいところもある。

他にも、児童が分散することで、先生同士の連携は難しくなる。

また、県や国からの調査物というのは小規模の学校でも標準規模の学校でも依頼の件数は同じ。小規模校は児童だけでなく、先生の人数も少ないので、一人当たりの負担というのは大きくなっていく。事務作業に時間がかかってしまうと子どもと向き合う時間は相対的に減ってしまう。

（広田小学校長）

調査物については、大きい学校が一人当たり1つだとしたら、小さい学校は一人当たり4つ割り当てられるような感覚がある。

また、少人数の学校では児童同士だけでなく、先生同士の切磋琢磨する機会というのも減ってしまう。例えば、単学級の学校では同じ学年の先生同士で相談することもできない。これが複数の学級であれば、授業内容等についてお互いに相談することもできる。

（保護者）

令和10年度が開校予定とあるが、もう間もなく建設を開始するものなのか。

（事務局）

これは最短で進んだ場合の計画となっている。この後、審議会で答申をもらってから具体的に新設について進めていくことになる。基本構想を含めての検討で1年、工事設計で1年、解体や工事で2年以上かかってくる。

その間にも教育委員会の定例会にて承認されることや議会で予算をとる必要等もあるので、これらが問題なく進んだ場合に令和10年度の統合となる予定。

（保護者）

学校行事の際に車で行けるような駐車場を設営すること、スクールバスの停留所を学校内に配置することを検討してもらいたい。

（保護者）

駐車場だけでなく、周辺道路の拡張も含めて検討してほしい。

（保護者）

ひまわり保育園の保護者による送迎もある。そこも含めると周辺道路の整備は必要ではないか。

（事務局）

駐車場や道路、学校の具体的なつくりというのは、今後審議会で答申をもらった後に検討していきたい。

（保護者）

未就学児の保護者が反対することはないと思うが、完成予定が令和10年度なのであれば、大きく関わってくるのは未就学児の保護者になってくる。この方たちを対象に意見交換の場を設けるべきではないか。

反対するとすれば、学校のOBを含めた地域の方々になってくるのではないか。この方たちも納得して、みんなに応援してもらえるように審議を進めてほしい。

（事務局）

地域の人、小学校の保護者、未就学児の保護者、それぞれの意見があり、みんなが納得するという

のは難しいところもある。学校が大切でなくしたくないというような感情論になると、話は平行線になってしまうことが多い。

引き続き、多くの人に応援してもらえよう、丁寧な説明会等を実施していきたい。

（保護者）

笠原小学校の意見交換会では、年配の方から多くの意見が出ていて、若い世代からはあまり出ていないように感じた。

（事務局）

保護者の方たちから鴻巣中央小学校に行きたいという声は多くいただいていた。

しかし、意見交換会や説明会では、年長者から反対の意見が出た際には、なかなか賛成と言いつらい雰囲気になってしまう。そのため、公の場ではなく個別で教育委員会にお話しくださる方が多くいた。

（保護者）

そのような状況の中、学校建設に対する前向きな意見を取り入れていくのは難しいように感じる。

（保護者）

意見交換会を行っていく中で、反対の人も賛成と思ってもらえるような説明や、意見交換ができればと思う。その中で、学校建設に対する前向きな意見を取り入れていけばよいのではないかな。

（事務局）

他地域を見ると、単学級で運営している義務教育学校もある。

人数が減少していく中で、追い込まれて義務教育学校にするのではなく、地域のシンボルとなり、対外的にもモデルとなるような小学校を作るという前向きな考えのもと、3校の統合を進めていきたいと考えている。

（保護者）

スクールバスの場合、ランドセルはどこに置くのか。

（事務局）

膝の上に置くことになる。

（保護者）

それだと狭くはないかな。

（事務局）

笠原で運行しているスクールバスにおいて、現時点では特別狭いという事はないと感じている。

（保護者）

引き取り訓練の際はどうか。その場合は保護者が車で小学校まで迎えに来るのか。

（事務局）

災害を想定して、引き取り訓練は行われる。その際はスクールバスを運行させるというのは厳しいので、学校まで迎えに来てもらうことになる。

（保護者）

みんなが車で迎えに来るとなると、十分な駐車場を設置する必要があるのではないかな。

（保護者）

実際の災害を想定してというのであれば、車で迎えに行くというのは考えにくいのではないか。

（保護者）

統合すると、学校までの距離が非常に遠くなってしまうので、徒歩というのは厳しく感じる。

（事務局）

市内の他の小学校では約2km離れている家庭もある。例えば、下忍小学校や常光小学校の一部地域が該当するが、そちらの保護者も基本的には徒歩や自転車で学校まで来てもらっている。

現状に比べれば、距離が遠くなる家庭もあると思うが、他地域と比べた際に、家庭から学校までの距離について、大きな差があるわけではない。

そこも含めて、今後、駐車場のあり方について検討していきたい。

（保護者）

新設の話が進んできた際に、今抱えている小学校に修繕の必要が出てきた際に対応してもらえるのか。

（事務局）

この場で、必ず対応するというのは言えない。というのは、市内に26校あり、築60年を超える学校もある。その中で、修繕は優先順位というのがどうしてもあることから、児童の安全確保について緊急性があるところから修繕していくことになる。例えば、校舎の壁が落ちてしまうようなところや屋上防水が剥がれて雨漏りしてしまっているところがこれに該当する。快適な環境のための改修というのは、その後になってしまう。

新設が見えているから、改修（保護者）修繕をしないということはない。

（保護者）

トイレの改修はしてもらえないということか。

（事務局）

現時点ではどちらとも言えない。

便座を使用する際の補助具については、教育委員会のほうでも検討していきたい。

（広田小学校長）

トイレに関しては、どこの小学校でも改修が必要であるように感じる。

（保護者）

統合して義務教育学校になった場合、9年間同級生が変わらないということか。

（事務局）

9年間、同じ同級生になる。

（保護者）

9年間同じだと、一度揉めると大変という話を聞くため、懸念している。

（保護者）

令和10年度の統合は決定なのか。

（事務局）

最短ですすんだ場合で令和 10 年度が統合年度となる。

(保護者)

新設する場所は決定しているのか。

(事務局)

まだ決まっていないが、義務教育学校とするのであれば、中学校に隣接した場所が建設地になることが想定される。

(保護者)

まだ、土地は抑えていないということか。

(事務局)

審議会で答申をもらって、新設の計画が認められてからでないと動き出すことはできない。

(保護者)

笠原小学校では、閉校という事で、現状の保護者に大きく影響してくる話であった。

しかし、川里地域の場合は未就学児の保護者に大きく関わってくる話であるので、ひまわり保育園の保護者などを中心に意見交換会を実施したほうがいいのではないか。

(事務局)

今後、未就学児の保護者に対しても意見交換会は実施していきたい。

(広田小学校長)

先進的な学校を作っていけたらいいと思う。その中で、小学校の授業を中学校の先生が行うことも考えられる。実際に中学校の先生が授業を行い、小学校で児童の様子を知ること、より小中での連携が深まると考えている。

また、英語の授業などに関しても、専門で英語を教えている中学校の先生が、小学校でも教えた方がより成果が出ると考えられる。

旧校舎（現在の 3 校）の使用については、低学年と高学年で校舎を分けるということは避けるべきだと思う。1、2、3 年生だけでは学びの幅が狭くなってしまう。

低学年の児童は最高学年である 6 年生を目標に学校生活を送っている。

やはり 6 学年分の児童が一つの場にいるというのは、学びの場として非常に大事なこと。

(保護者)

広田小学校では鼓笛のような学校行事がある。これが統合後、無くなってしまうのは寂しく感じる。

また、人数が増えることで運動会などのイベントを見る時間が減ることは避けてほしい。(コロナ禍において、他の小学校では徒競走とリレーしか観戦できなかった小学校があった。)

(事務局)

地域の力を借りて、実施している学校行事というのものもある。これらを続けていくためにどのように地域の方の協力を得ていくのか、検討していく必要がある。

賛成、反対もあると思うが、今お話しいただいたような、統合した上でどのような課題が出てくるのかというのが将来を見据えた前向きな意見と感じ、議論を一步進める意見だとも思うので、そのよ

うな意見をたくさんいただければと思う。

（保護者）

バリアフリーに対応した校舎にしてほしい。階段だけでなく、エレベーターをつけてもらいたい。

（事務局）

新設するのであれば、必ずバリアフリーに配慮した学校になる。（複数階となった場合）もちろんエレベーターというのも設置することになる。

（保護者）

特別支援学級の教室は、通常の堅い壁ではなく、ぶつかっても怪我をしないような柔らかい素材を使用してほしい。

（保護者）

赤見台中学校では中庭があるが、新設校にも同じように作ってもらいたい。

（保護者）

給食は小学校で作ってほしい。

（事務局）

給食室は校舎内に用意する。鴻巣市でも食育に関しては力を入れており、現在の川里地域3校でも給食室が設置されている。

（保護者）

ふくろうの森保育園ではライブキッチン（メニューが複数あり、どれを食べたいか児童に選んでもらう）を採用していて、非常に好評とのこと。小学校の規模では難しいと思うが検討してほしい。

（保護者）

学童は校内（敷地内）に併設してほしい。

（保護者）

小学校と中学校が併設されるのであれば、小学校で作った給食を中学校に運搬することはできないか。

（事務局）

小学生と中学生では一日で摂取するエネルギー量も異なるので同じ給食というわけにはいかないと考えられる。しかし、新設する学校が9年制の小中一貫校（義務教育学校）となった際に、新校舎で全学年分の給食を作るのかというのは今後検討していく必要がある。
